

感謝に対する応答表現“別客气”と“不客气”の語用論的考察

西 香 織

1. はじめに

一般的な感謝の場面では、大きく次の2段階の言語行動が見られる。

①Aが恩恵を受けたBに対して感謝の言葉を述べる。

②BがAの感謝に応答する。

現代中国語には、“谢谢”などの感謝を表す表現に対して、“不用谢”や“不谢”、“不客气”、“别客气”などといった、ほぼ定型化した応答表現が見られる。より口語的な応答表現として、“没关系”や“没事儿”が用いられることもある。感謝の程度や相手との関係によっては、“哪里哪里”や“没什么”といった表現のほか、非定型表現も多数使用されている。

これまで、特に日本語社会や英語社会などと比較して、中国語社会¹⁾では、“谢谢”などの感謝表現の使用頻度が低いこと、特に家族や友人といったごく親しい間柄では、感謝や詫びという行為自体、行なわれないのがふつうであることなどが指摘されてきた²⁾。しかし、近年、社会や経済の発展に伴い、中国語社会においてもモラルやマナーの向上が求められるようになり、学校や職場などにおいても、より丁寧な言葉の使用が推奨されるようになった。その結果、感謝のやりとりは日常生活においても見られるようになり、今後も“谢谢”などの感謝表現やそれに対する応答表現の使用頻度がますます高まることが予想される。

さて、感謝表現に対してさまざまな応答表現があるが、それぞれの応答表現が全て自由に入れ替えられるわけではなく、仮に入れ替え可能であっ

たとしても、全く同一の意味で使用されるわけではない。たとえば、“不用谢”と“不谢”が感謝に対する応答専門の表現であるのに対し、“别客气”と“不客气”は、感謝に対する応答としてのみならず、相手の遠慮や謙遜に対して用いられ、相手の親切や好意に対する応答として用いられることもあるという点で異なっている。また、“谢谢”（「ありがとう」）系の感謝表現に対しては、いずれの応答表現も一応は使用可能であるが、“感谢”（「感謝する」）系の感謝表現に対しては“不谢”は使えないという指摘も見られる（相原 2000 : 20）³⁾。

本稿では、感謝の言葉に対して用いられる応答表現の中で、意味、形式共に最も近いものと考えられている“别客气”と“不客气”について語用論的角度から考察し、両者にどのような差異があるか、両者の使い分けにはどのような尺度がはたらくかを明らかにしたい。なお、応答表現の選択にあたっては、地域差や男女差、個人差なども大いに関わると考えられるが、本稿ではひとまず考慮の対象外とする⁴⁾。

2. 問題提起

2.1 感謝のやりとりとは

そもそも、感謝のやりとりとはどういうものなのか。

森山 1999 : 78-82 は、お礼（感謝）を「関係修復的言語行動」として捉えており、以下のようなモデルを提示している⁵⁾。

[表 1]

初期状態	利害を含む事態	関係修復 (顕在化)	応答 (否定)	回復状態
話し手：0	-X	-X	-X	(0)
言語行動：		↓「不均衡」	↑「否定」	
聞き手：0	+X	+X	+X	(0)
(例	行為	ありがとう	どういたしまして)	

森山 1999 は、お礼とは聞き手からの利益の提供に伴う心理的不均衡の修復であり、それに対する応答は関係修復の受け入れを表すもので、応答することにより不均衡は表面的には解消される、と述べている。つまり、聞き手からの何らかの利益の提供によって、話し手は負い目を感じ、その負い目を解消するために「ありがとう」などというお礼を述べ、聞き手がそれに対して「いいえ」や「どういたしまして」などと応答をすることにより、話し手はその負い目をとりあえずは解消することができる、というのである。

2.2 現代中国語における感謝のやりとり

では、現代中国語においては、どのような表現を用いて感謝のやりとりが行われるのであろうか。

言語行動のみを見ていくと、“谢谢(你)”や“多谢”、“非常感谢”など、“谢(谢)”、“感谢”を用いた感謝表現があり、その応答表現には、既に述べたとおり、さまざまなものが見られる。たとえば、西 2008 : 36 では、60 種の中国語入門・初級テキストにおける感謝表現とそれに対する応答表現の提示状況を示しているが、テキスト中に提示された感謝表現は計 265 例あったのに対し、それに対する応答表現は計 125 例(15 種類)であり、内訳は以下の通りであった。

感謝に対する応答表現“別客气”と“不客气”の語用論的考察

[表 2]

不谢	43	没事儿	各 2
不客气	40	没什么	
不用谢	13	没关系	
别客气	7	您 / 你 太客气了	
哪儿的话	4	客气什么	各 1
哪里, 哪里	各	哪里, 哪里, 不用谢	
不用客气	3	不要客气	
		谢谢	

この中で、本稿に関わる“不客气”と“别客气”について見ると、応答表現 125 例のうち、“不客气”は 40 例の提示が見られたのに対し、“别客气”は 7 例にとどまった。

次に、5 種類の中国語辞書における応答表現“不客气”と“别客气”の提示状況について見ると、以下の通りであった⁶⁾。

[表 3]

	不客气	别客气
中日辞典 (第 2 版) 小学館	○	×
白水社中国語辞典 白水社	○	×
東方中国語辞典 東方書店	○	×
講談社中日辞典 (第 2 版) 講談社	○	×
现代汉语词典 (2002 年増補本) 商务印书馆	×	×

“不客气”は5種類中4種類の辞書に見出し語として掲載されており、「感謝に対する応答表現」という記述も見られるが、“别客气”は、表3のとおり、全ての辞書において見出し語として載せられていなかった。このことから、辞書のレベルで感謝に対する応答表現として認められているのは、“不客气”であると言える。

さらに、面識のない間柄での比較的軽い内容に対する感謝のやりとりにおいて、どのような応答表現が使用されるかを実際に中国（上海、南京、北京、天津、長春、哈爾濱）において調査したところ、以下のような計141例（22種類）の応答表現が見られた（西2008：43-44）。

[表4]

不客气	39	ei	3
没事（儿）	22	再见	2
没关系	16	不客气，没事儿	各 1
不用谢	各	没事儿，不客气	
不谢	10	没事儿，应该的	
a	7	不用客气	
不用	各 5	没有	
hng		（谢谢）	
别客气		（慢走）	
不要紧	各	（慢点儿）	
没得事	4	（慢走，再见）	

言語調査の結果においては、“不客气”が141例中39例見られたのに対し、“别客气”は5例にとどまった。

2.3 “别客气” = “不客气”か

中国語の入門・初級テキストや辞書、そして、実際の感謝のやりとりの場面において、“别客气”と“不客气”のふるまいは既に大きく異なっているようにみえるが、“别客气”と“不客气”が同じ意味のように説明されることもある。

相原 2000 : 16-20 では、“不客气”と“别客气”は本来違うものだとしながらも、次のような例の場合には同じように使えるとし、ここでの“别客气”と“不客气”はいずれも感謝などの丁重な“客套话”（常套句、挨拶ことば）に対する応答として使用することができ、意味もそっくりであると述べている。

- (1) 太谢谢您了。(ありがとうございます)
 - 别客气。(どういたしまして)
 - 不客气。(どういたしまして)
- (2) 总是给您添麻烦。(いつもご面倒をおかけします)
 - 别客气。(どういたしまして)
 - 不客气。(どういたしまして)

そして、この場合の“不”を、“不要”、“不用”の意味に解釈し、以下の等式を示している。

不客气 = 不要客气 = 不用客气

ここで、“别客气”と“不客气”の形式上の違いについて確認しておく、両者は動詞“客气（遠慮する、丁寧にする、気をつかう）”の前に付く“别”と“不”が異なるのみである。《现代汉语词典（2002年増補本）》では、“别客气”の“别”は、

表示禁止或劝阻，跟‘不要’的意思相同。

（禁止や忠告してやめさせることを表す。“不要”と同じ意味）と説明されている。また、“不”は本来、否定を表す副詞であるが、“不客气”の“不”は、

〈方〉不用；不要（限于某些客套话）。

（方言で“不用”、“不要”。ある挨拶言葉に限って使用される）と記述されており、用例として“不谢（どういたしまして）”、“不送（お見送りは結構です）”、“不客气（どういたしまして）”が挙げられている。“不客气”の“不”は辞書においては方言扱いではあるものの⁸⁾、この記述は相原 2000 の示した等式が成り立つことを保証するものであり、意味レベルでは以下の等式が成り立つことになる。

不客气 = 不要客气 = 不用客气 = 别客气

不客气 = 别客气

しかし、これはあくまで意味レベルのことであり、“别客气”を使う場合と“不客气”を使う場合で、どのようなニュアンスの違いが生じるかという語用論的なアプローチは、これまでのところなされていない。そこで、次節では、中国語母語話者 30 名に対して行ったアンケート調査の結果をもとに、感謝の言葉に対する応答として“别客气”または“不客气”が優先される時に、どのような尺度が関わるかについて見ていくことにする。

3. 選択の尺度

感謝の言葉に対する応答として“别客气”、“不客气”のいずれも可能な場面において、応答表現の選択にはどのような尺度が関わっているのだろうか。

まず、10 種類の感謝の場面の対話を用意し、中国語母語話者 30 名⁹⁾に対してアンケート調査を実施し、その結果をもとに、“别客气”または“不

客气”が選ばれる場合の尺度を、〔人間関係（親疎関係・上下関係）〕・〔場面（フォーマル度）〕・〔親近度（心理的親疎関係）〕・〔感謝の度合い〕の4種類に分けた。以下、例文中の「 $X=Y$ 」は、 X と Y の選択に大きな優先順位が見られないこと、「 $X>Y$ 」は X の使用が Y よりも優先されることを示す。なお、出典の記載がない例文は、中国語母語話者によるチェックを経た筆者による作例である。

3.1 人間関係（親疎関係・上下関係）

まず、お礼を述べる者とお礼を述べられる者との人間関係について、親疎と上下に分けて考えることにする。

親疎、つまり、面識があるかないか、その人と親しいかどうか、という尺度についてみると、既に述べたように、中国語社会では、特に家族や友人といった親しい間柄（《親》の関係）においては、感謝のやりとりを行うこと自体がまれである。したがって、特に親しい間柄では、“別客气”、“不客气”のいずれもほとんど使用されない。さほど親しくはないが面識があれば“別客气”、全く面識のない初対面の相手であれば“不客气”が選ばれる傾向が見られる。

(3) (病院で。AとBは面識がない)

A: 请问, 内科怎么走?

B: 乘电梯到二楼。

A: 谢谢。

B: 不客气 > 别客气。

(A: ちょっとお尋ねしますが、内科にはどう行けばいいですか。

B: エレベーターで2階に上がってください。 A: どうも。

B: R^{10})

次に、上下関係について見てみよう。ここでいう上下関係には、実際の年齢（世代）のほか、地位などの上下も含まれる。上下という尺度を用い

た場合、目上の人や上司など、《上》の関係にある人に対しては、“不客气”が選択される傾向が強いが、目下や部下など、《下》の関係にある人に対しては、“别客气”が選択される傾向が強くなる。

(4) 李教授：哎，张晓华，看见方老师了吗？

张晓华：什么事？李老师。

李教授：她的长途电话。

张晓华：哦，我知道方老师在哪儿。

李教授：麻烦你去叫她一声。谢谢！

张晓华：=学生：不客气 > 别客气。

=同事：不客气 = 别客气。

(李教授：ねえ、張曉華君、方先生を見なかったかい。 張曉華：どうしました、李先生。 李教授：方先生に長距離電話なんだが。 張曉華：ああ、方先生がどこにいらっしゃるか、私、知っていますよ。 李教授：面倒だけど呼んできてくれないか。 よろしく。 張曉華：R)

例(4)において、李教授と話している“张晓华”が学生だった場合、すなわち、李教授と明確な上下関係がある場合には、《上》の関係である李教授に対して“不客气”が選択される傾向が強くなり、“张晓华”が部下（助手など）と仮定した場合には、やはり“不客气”が選択される傾向が強いが、同僚教授である場合には、“不客气”と共に“别客气”が選択される傾向も強まった。次の例も同様に、初対面のお年寄りに対しては、“别客气”よりも“不客气”が選択される傾向が強い。

(5) (バスの中で。お年寄りが若い女性に席を譲ってもらう)

姑娘：“大爷，您请坐。”

大爷：“谢谢！”

姑娘：“不客气 > 别客气。我年轻，站一会儿没关系。”

(娘:おじいさん、どうぞ座ってください。 老人:ありがとう！

娘:㊦。若いのでちょっと立っているくらい平気です)

以上の例から、親疎の関係で言えば、相手が《疎》であればあるほど、上下関係であれば、相手が《上》であればあるほど、“不客气”が使用される傾向が強くなると言える。

なお、中国語においては、特に家族など親しい間柄では、感謝のやりとり自体がほとんど見られないことから、上下関係よりも親疎関係の尺度が優先されると考えられる。

3.2 場面 [フォーマル度]

次に、感謝のやりとりが行われる場面に目を向けてみる。“不客气”、“别客气”はいずれも改まった応答表現と見なされており、アンケート調査の結果から、特に改まった場面では、大多数の人が“不客气”を使用するほうがふさわしいと感じていることが見て取れた。特に、職務上の公的關係、社会的関係において使用される傾向が強い。

(6) (役所の出張所で。一組の夫婦が離婚の手続きに来ている)

“顺便问一句，你们的孩子由谁赡养达成协议了吗？”“我们没孩子，你也不是不知道，我们结婚还不到一个月。”“那不一定，有的人结婚一个月、不到一个月也有孩，现在怎么能用老眼光，常规的认识去衡量事物？七个月以上的胎儿也要当作生命考虑在内。”

“谢谢，我们没有孩子，我也没有怀孕。”

“不客气 > 别客气，走好。”(《人莫予毒》王朔)

(「ついでにお尋ねしておきますが、お子さんはどちらが扶養するか合意はできていますか」「私たちに子どもがいないことはご存知のはずでしょ。私たち結婚してまだ一ヶ月も経っていないんですよ」「そんなこと分かりませんよ。結婚して一ヶ月だろうが、一ヶ月経っていないだろうが、子どものいる人はいますから。今は古い見方や型には

まった考えで物事を判断することなんてできないんです。7ヶ月以上の胎児も命として考慮のうちに入れなくてははいけません」「それはどうも。私たちには子どもはいないし、妊娠もしていません」**「R」**。
お気をつけて」)

- (7) (手術室控え室で刑事が看護婦に事情聴取を行っている)

刑警：(写真を取り出して) 你见过这个人吗？

段紅：(写真を受け取って) 没见过。

(手術室から) 段紅，有手术。

(2人が同時に立ち上がる)

刑警：不耽误你的工作了。谢谢你的帮助。

段紅：不客气 > 别客气，希望你们能早日破案。

(电影剧本《完美阴谋》)

(刑事：この人に会ったことがありますか。 段紅：ありません。

(手術室から) 段紅，手術よ！ 刑事：もうお仕事の邪魔はしません。ご協力ありがとうございました。 段紅：**「R」**。はやく事件を解決してくださいね)

- (8) (病院の廊下で女医に検査の結果を聞く)

毛納：欸，张医生，我那个诊断结果出来了吗？

女医生：不是恶性的。可以踏实了。

毛納：晚了一步……

女医生：嗯？

毛納：啊，没事儿。谢谢你啊。

女医生：不客气 > 别客气。(电影《好想好想谈恋爱》)

(毛納：あ、張先生、私の診断の結果は出ましたか。 女医：悪性ではありませんでした。安心していいですよ。 毛納：一足遅かったわ……。 女医：え？ 毛納：あ、いえ何でも。あり

ありがとうございました！ 女医：[R]

例(6)、(7)、(8)のいずれも、職務上の関係で感謝のやりとりが行われている。西 2008 : 42-43 によれば、中国語社会では“別客气”よりも“不客气”のほうがより規範的な表現と捉えられている。このことから、よりフォーマル度の高い場面、改まった口調の場合には、“不客气”が選択される傾向が強くなるのだと考えられる。

3.3 親近度 [心理的親疎関係]

次に、親近度という尺度で“別客气”と“不客气”を見てみよう。先に見た親疎関係と関わるが、お礼を述べた相手に対して、話し手が親近感を持ち、好意的で愛想のよい態度であるほど、つまり、話し手が心理的に《親》な関係と捉えているほど、“別客气”が選択される傾向が強い。次の例を見てみよう。

- (9) (公安局で。警官が老婦人の話を聞きながら容疑者の似顔絵を作成している)

大妈：脸再瘦一点儿，对。眼睛再靠近一点儿，对……

(警官が似顔絵に手を加えている)

大妈：就是他。

(刑事が婦人を外に送り出している)

刑警：真谢谢您，帮了我们的忙了。

大妈：别客气 > 不客气¹¹⁾。

(数歩歩いて) 你们忙你们的吧，不用送了。

刑警：您慢走。(电影《完美阴谋》)

(老婦人：顔はもうちょっと細くして。そう。目はもうちょっと近づけて。そう……。 老婦人：そうこの人よ！ 刑事：本当にありがとうございました。おかげで大変助かりました。老婦人：[R]。もう仕事に戻ってちょうだい。見送りは結構よ。刑

事：どうぞお気をつけて)

例(9)は例(7)と同じく、警察から事情聴取を受けた後（情報提供を行った後）の刑事との感謝のやりとりの場面であるが、例(7)と例(9)では、選択される応答表現が異なっている。これは何を意味するのであろうか。例(7)で刑事がお礼を言った相手は“护士（看護師）”であり、例(9)で刑事がお礼を言った相手は“大妈（老婦人）”である。刑事とのやりとりから見ても、この“大妈”は非常に積極的かつ好意的に捜査に協力していることが分かる。“大妈”の典型的イメージとしても、「誰にでも気軽に話しかける、積極的（時におせっかい）、明るい、おしゃべり好き……」といったものが挙がるのではないだろうか。それに対して、例(7)の“护士”は事情聴取に淡々と応じているような印象を受ける。次の例も見てみよう。

(10) （初対面の 2 人の幼稚園児の保護者が、子どものことを話題に話している）

当小女孩的妈妈听印家厚说他家住在汉口，还必须过江，过了江还得坐车时，她“啞”了一下，说：“简直是到另一个国家去了，可怕！”

印家厚说：“好在跑习惯了。”

“我家就在这趟车的终点站旁边。往后有什么不方便的时候，就把印雷接到我家吧。”

“那太谢谢了！”

“别客气 > 不客气¹²⁾！只要不让孩子受罪就行。”

“好的。”（《烦恼人生》池莉）

（女兒の母親は、印家厚が漢口に住んでいて川を渡らないといけず、川を渡ったらさらにバスに乗らなくてはいけないと言うのを聞くと、驚いて言った。「まるで外国に行くみたいだわ。なんてこと！」印家厚は言った。「幸い、もう慣れました」「うちはちょうどこのバスの終点辺りなの。今後、都合が悪い時でもあったら、印雷ちゃんをう

ちで預かるわよ」「そいつはありがたい！」**[R]**。子どもに大変な思いをさせないようにしなくちゃ」「ええ」

この例でも圧倒的に“別客气”が選択される傾向が強く、2人は初対面ながら、園児の保護者（母親）の積極的かつ好意的な態度から、“別客气”がよりふさわしいと判断されたものと思われる。ただし、この例では、未然（未来）のことに對して感謝の言葉が述べられており、“別客气”は、感謝の言葉に対する応答表現というよりも、本来の「遠慮しないで」の意味が強く出ているためとも考えられる。それでは次の例はどうであろうか。

(11) (ある中国人女子大生のブログ)

昨天回家的车上，给一个小孩和小孩她妈让坐，小孩很有礼貌地向我说“谢谢阿姨”！我点头，微笑（脸部僵硬），说不客气 > 别客气！¹³⁾。

（昨日、帰りのバスの中で、ある子どもとそのお母さんに席を譲った。その子どもはとても礼儀正しく私に「ありがとう、おばさん！」と言った。私はうなずき、微笑んで（顔はひきつっていたが）、**[R]**と答えた）

ここでは、圧倒的に“不客气”が選ばれていた。“不客气”と言った女子大生は、積極的に小さな子どもとその母親に席を譲って親切な態度を示していたのであるから、親近度は高いはずである。にもかかわらず、なぜ、“不客气”のほうがふさわしいとされたのか。理由は、うら若き女子大生が“姐姐（お姉さん）”ではなく“阿姨（おばさん）”と呼ばれたことにある。これまで、中国では、相手への敬意を表すために、自分より上の世代の呼称を用いることが普通であった¹⁴⁾。しかし、近年、特に若い世代では、日本と同様により若く見られることを好む傾向が見られ、呼びかけるほうも、特に女性に対しての呼称には気を配っているようである¹⁵⁾。この女子大生は自分が“阿姨”と呼ばれたことに不快感を覚えたのであろう。そこ

で、機械的に特に親近感を感じさせない“不客气”を用いて応答したものと考えられる。ここで“不客气”を用いることで、女子大生の不快感が暗に示されることにもなる。話し手の不快感を表す（親近感を持っていないことを表す）ためには“不客气”がよりふさわしいのである。

仮に女子大生が不快感を抱いていなくとも、ここで“不客气”が選ばれる可能性は高い。3.1の上下の尺度では、《上》に対しては“不客气”が、それ以外には“别客气”が選択される傾向が強いことを示した。例(11)は小さな子どもという明らかに《下》の関係に対しての応答であり、上下関係の尺度を用いれば、“别客气”のほうがふさわしいはずであるが、相手が言葉を完全に習得していない小さな子どもである場合には、できるだけ正しい丁寧な言葉で話そうという規範意識がはたらくため、上下の尺度がはたらかないことがある¹⁶⁾。

3.4 感謝の度合い

感謝の内容や、それに対する感謝する側の態度が、応答表現の選択に影響を及ぼすこともある。2.3が話し手（応答する側）の態度であったのに対し、これは聞き手（感謝する側）の態度である。感謝のやりとりは、当然のことながら相互作用的であるため、感謝の内容が重大なものであるほど、感謝の言葉は相対的に丁寧になり、感謝の言葉を述べる側もより懇切な言葉と態度を選ぶ。たとえば、道を尋ねて答えてもらった場合の感謝と、命を助けてもらった場合の感謝では、選択される表現や語調、態度が異なるであろうことが容易に想像できる。仮に、いずれも“谢谢”という一語のみの感謝表現であったとしても、前者であれば、軽く速い調子で述べられるであろうし、後者であれば、ゆっくりと強く気持ちをこめて述べられるであろう。目に涙さえ浮かべているかもしれない。このような感謝のしかたの違いは、それを受ける側にも影響を及ぼすことになる。感謝される内容が軽く、感謝する側の態度も比較的軽いものであれば、それに対する

応答表現も軽いものが選ばれ、より機械的な応答になるであろうし、場合によっては無反応ともなる。感謝される内容が重大なもので、感謝する側の態度も懇懇なものであれば、感謝を受ける側も相対的に丁寧な応答となる傾向がある。

“別客气”も“不客气”も比較的軽い内容の感謝に対して用いられるが、感謝する側に心がこもっているほど“別客气”が、機械的な感謝ほど“不客气”が選択される傾向が見られる。例(12)と(13)を比べてみよう。

(12) (喫茶店で)

服务员：先生，您点的咖啡。请慢用。

客人：谢谢。

服务员：**不客气 > 别客气。**

(店員：ご注文いただいたコーヒーです。ごゆっくりどうぞ。

客：ありがとう。店員：☐)

(13) 我急急地向地铁站口跑去。

我看到那个女孩正把厚厚一沓刚从我这里买到的报纸和找回的零钱，交给一对中年夫妇。

女人感激地对女孩说：“谢谢你。剩下的这点钱，你就留下吧。素不相识的，帮了我们的忙……”双手推着。

女孩的头左右晃动着说：“一桩小事，**别客气 > 不客气** 17。”把钱送回，然后张开樱桃颜色的花伞，走出地铁站。

(《最晚的晚报》毕淑敏)

(僕は急いで地下鉄の駅の出口へと走った。さきほどの少女が僕から買ったばかりの分厚い新聞一束とつり銭を中年の夫婦に渡しているのが見えた。女性は「ありがとう！残ったお金は取っておいて。見も知らないのに本当に助かったわ」と少女に感謝し、お金を押し返した。すると少女は首を横に振って「たいしたことはあ

りません。㊀」と言い、お金を返すと、さくらんぼ色の柄物の傘を広げて、駅を出て行った)

例(12)は、喫茶店で注文したコーヒーを持ってきてもらった場面であり、例(13)は、新聞を売っている息子を心配した両親が、面識のない少女に頼んで、客を装って売れ残っている新聞を全て買い取ってもらった場面である。感謝の内容の重み、感謝する側の態度の違いによって、感謝表現も異なっている。さらに例を追加する。

(14) (友人に空港へ行く道を尋ねている)

王朋：你怎么去机场？

李友：我想坐公共汽车或者坐地铁。你知道怎么走吗？

王朋：你先坐一号汽车，坐三站下车，然后换地铁。先坐红线，再换绿线，最后换蓝线。

李友：不行，不行，太麻烦了。我还是坐出租车吧。

王朋：坐出租车太贵，我可以开车送你去。

李友：谢谢你。

王朋：别客气 = 不客气¹⁸⁾。

(『Integrated Chinese 中文听说读写 (2nd Edition)』)

(王朋：空港までどうやって行くの。 李友：バスか地下鉄で行きたいのだけど、どう行くか知ってる？ 王朋：まず、1番のバスに乗って3駅目で降りて、それから地下鉄に乗り換える。まずレッド線に乗って、次にグリーン線、最後にブルー線に乗り換える。 李友：だめだめ、ややこし過ぎる。やっぱりタクシーで行くよ。 王朋：タクシーは高すぎる。僕が車で送ってあげようか。 李友：ありがとう。 王朋：㊀)

(15) (空港で)

A：谢谢你特地到机场送行。

B: 别客气 > 不客气¹⁹⁾。

(A: 空港までわざわざ見送りに来てくれてありがとう。 B:
R)

例(14)は車で空港まで送ってあげようという提案に対して感謝する場面であり、例(15)は空港まで見送りに来てくれたことを感謝する場面であるが、例(14)では、“不客气”と“别客气”がほぼ同じ割合で選択されたのに対し、例(15)では“别客气”が圧倒的に多くなった。3.1 で見たように、友人同士の会話で例(13)のように“不客气”または“别客气”が使用されるのは堅苦しい印象を与えるが、両者の選択状況の違いはやはり感謝する側の感謝の度合いによるものと考えられる。

4. まとめ

以上、ある感謝に対して応答表現“别客气”、“不客气”のいずれも使用可能な場合において、どちらか一方が選ばれる際にはたらく尺度にどのようなものがあるかについて考察した。それぞれの尺度を合わせた全体的な印象として、「フレンドリーな“别客气”」、「クールな“不客气”」とまとめることができるだろう。では、“别客气”と“不客气”にこのようなニュアンスの違いをもたらすものは一体何であろうか。

これは両者の定型化の度合いの違いを反映したものと考えられる。“不客气”は、感謝に対する応答表現として、“别客气”よりも定型化の度合いが高く、慣用表現として確立しているが、“别客气”にはまだ元の“别”、“客气”それぞれの意味が生きている。それは以下のように、他の語を加えても感謝に対する応答として成り立つかどうかによって判断可能である²⁰⁾。

“别客气” → 别那么客气 你别客气 请别客气 别客气了

“不客气” → ??不那么客气 ??你不客气 ??请不客气 ?不客气了

慣用表現として確立していけばいくほど、本来の意味が薄れていき、そ

の分、形骸化した挨拶となる。それが規範的な表現として扱われるようになると、丁寧度は増すが、その分、心のこもらない（心をこめにくい）機械的な応答ともなる。

第3節でみた基準に基づいてみると、“別客气”と“不客气”の選択に影響を及ぼす尺度には以下のようなものがある。

やや親、やや疎	疎
目下・同等	目上
フォーマル度中	フォーマル度高
ややくだけた口調	改まった口調
親近度高	親近度低
心のこもった感謝に対して	機械的な感謝に対して
[フレンドリー]	[クール]
別客气	不客气

どの尺度がより有効にはたらくかについては、今後、さらに検証していく必要があり、今後の課題とするが、それぞれの尺度が複雑に絡み合っていることは間違いない。また、“不要客气”、“不用客气”が“別客气”や“不客气”と語用論的にどのような異同があるのかも、今後考察していきたい。

なお、20代から30代の中国語母語話者21名²¹⁾に、“谢谢”などの感謝表現に対する応答表現“不客气”、“别客气”、“不用谢”、“不谢”を丁寧だと思ふ順に並べてもらったところ、次のような結果となった²²⁾。

不客气 (71) > 不用谢 (60) > 别客气 (45) > 不谢 (35)

特定の場面を与えない調査であったためか、10 パターンの回答が見られたが、少なくとも、

不客气 > 别客气

不用谢 > 不谢

ということは言えそうである。

“不客气”と“别客气”は、似ているようでやはり異なるニュアンスを持った表現なのである。

注

- 1) 主として、普通話が通用する地域を指す。
- 2) 邓炎昌・刘润清1989 : 186、施暉2007 : 141等参照。
- 3) 相原2000は、使用できない理由を説明していないが、“感谢”は“谢谢”よりもより丁寧な表現であり、その表現に対して、“不谢”という相対的に丁寧度の低い応答表現を用いるのはふさわしくないからではないかと考えられる。応答表現の丁寧度については、第4節で述べる。
- 4) 2.2で紹介する西2008 : 43-44の調査では、地域差は見られたが、男女差は特に見られなかった。施暉2007 : 128も、「中国語の語彙面においては男女が異なって使用するあいさつ言葉は殆ど見当たらない」と述べている。
- 5) 表中の+はそれぞれ利害関係を表し、X は利害の事態内容を表す。また、お礼（感謝）の場合は、聞き手の「+X」（利益提供）が先行する（森山1999 : 79）。
- 6) 西2008 : 41の表より一部抜粋。
- 7) 相原2000 : 21では、“不客气”には以下の3種類があることが示されている。

不客气₁ “不” + <動詞> = 遠慮しません

不客气₂ “不用” + <動詞> = 遠慮には及びません

→どういたしまして

不客气₃：“不”+〈形容詞〉＝無遠慮だ

本稿で議論しているのは、“不客气₂”の用法である。

- 8) ただし、“不客气”そのものは、普通話として認識されている。
- 9) 被調査者は20代から30代の大卒以上の学歴を持つ社会人30名（男性14名、女性16名）で、小説や映画などからとった感謝のやりとりの場面の応答の部分［別客气 不客气 其他（ ）］とし、その場面によりふさわしいと思われる表現を選択してもらおうという方法をとった。特に違いがないと感じた場合は、“別客气”と“不客气”の間に「＝」を記入、いずれもふさわしくない場合は、その他の表現を記入してもらった。
- 10) “不客气”、“別客气”に和訳を施さず、**R**としているのは、日本語の感謝の場面において、実際には言語行動ではなく会釈や微笑といった非言語行動が使用されることが多いという事実を反映させたためである。西2006参照。
- 11) 原文は“不用客气”。
- 12) 原文は“千万别客气”。
- 13) 小さな子どもに対しては、“不客气”や“別客气”を使うのは不自然であり、“不用谢”を用いるのがふさわしいという被調査者が3名いた。なお、この例文は実際にインターネット上にあったブログの内容に手を加えたものである。
- 14) 相原他1987：82-84、丁秀山1985：150、上野2007：133-134等参照。
- 15) 筆者は、南京のあるホテルのレストランで、40代後半の既婚女性が“小姐（お嬢さん）”と呼ばれているのを耳にした（2007年3月）。また、60代後半の日本人女性が、「10年前に中国を旅行した時には、子どもに“奶奶（おばあさん）”と呼びかけられたのに、先日、中国に行ったら“阿姨（お

ばさん)”と呼びかけられて、より若い呼称で呼ばれたことに驚いた」と語るのを聞いた(2007年11月)。

16) 小さな子どもや外国人に対してより規範的な言葉を用いようとする傾向は、日本語の感謝の場面でも見られた(西 2006 : 3-8)。

17) 原文は“不客气”。

18) 原文は“不用客气”。

19) 原文は“不用客气”。

20) ただし、『中国語の環』編集室 2003 : 235 は、客に対して主人が「遠慮しないでください」という意味で“不客气”と言う時、“你不客气!”、“不客气了!”のように、“你”や“了”を補うことができるとする。

21) 注 9 の被調査者 30 名のうち 21 名から回答を得た。

22) 得られた回答に対して、丁寧度の高い順に 4 点、3 点、2 点、1 点と点数化した。

参考文献

相原茂 2000 『あ、知ってる中国語——常用ファイル 50』東京：東方書店

相原茂 2002 『講談社中日辞典 (第 2 版)』東京：講談社

相原茂・荒川清秀・大川完三郎 2004 『東方中国語辞典』東京：東方書店

相原茂・木村英樹・杉村博文・中川正之 1987 『中国語入門 Q & A 101』東京：大修館書店

『中国語の環』編集室 2003 『中国語の環 総集編 I』東京：好文出版

伊地智善継 2002 『白水社 中国語辞典』東京：白水社

森山卓郎 1999 「お礼とお詫び—関係修復のシステムとして」『國文學 解釈と教材の研究』第 44 巻 6 号 : pp.78-82

西香織 2006 「ありがとうと言われたら—鹿児島市における意識調査及び街頭調査を通して—」『鹿児島県立短期大学地域研究所研究年報』第 37

号 : pp.1-15

西香織 2008 「感謝に対する応答の表現を初級でどう教えるか」『中国語教育』第6号 : pp.34-54

北京商務印書館・小学館 2003 『中日辞典 (第2版)』東京 : 小学館

施暉 2007 「日中両国におけるあいさつ言語行動についての比較研究——『家庭』でのあいさつを中心に——」『日中対照言語学研究論文集——中国語からみた日本語の特徴、日本語からみた中国語の特徴』彭飛企画・編集、大阪 : 和泉書院、pp.121-148

丁秀山 1985 『あなたの疑問にこたえる 中国語百問百答』東京 : 東方書店

上野恵司 2007 『新版 中国語 72 話 ことばの周辺』東京 : 白帝社

邓炎昌・刘润清 1989 『Language and Culture 语言与文化——英汉语言文化对比——』北京 : 外语教学与研究出版社

中国社会科学院语言研究所词典编辑室 2002 『现代汉语词典 (2002 年增补本)』北京 : 商务印书馆

Yao, Tao-chung & Liu, Yuehua 2005. *Integrated Chinese* 中文听说读写 (2nd Edition), Boston: Cheng&tsui Company, Inc.,

感謝に対する応答表現“別客气”と“不客气”の語用論的考察

白